

## 平成30年度第1回 北九州市上下水道事業検討会 会議要旨

**【日 時】** 平成30年7月4日(水) 10:00~11:30

**【場 所】** 上下水道局大会議室(小倉北区役所庁舎東棟5階)

**【構 成 員】** 榎田構成員、小畑構成員、甲斐構成員、菊池構成員、佐藤構成員  
福地構成員、宮内構成員、村井構成員、柳井構成員 [50音順]

**【出席職員】** 上下水道局長、総務経営部長、海外事業部長、水道部長、浄水担当部長  
下水道部長、下水道施設担当部長、総務課長、経営企画課長、営業課長  
広域事業課長、海外事業課長、計画課長、設計課長、配水管理課長  
浄水課長、水質試験所長、下水道計画課長、保全担当課長、下水道整備課長  
施設課長、水質管理課長、経営企画課(事務局)

《議題及び報告》

◇議題

1 中期経営計画の進捗管理(平成30年度予算)について事務局から説明

◆議題に関する質疑応答・意見

(構成員)

3ページの「寒波対策」について、寒波が来る前に空き家を閉栓するということですが、空き家であれば普段から閉栓しておけば良いのではないかと思います。この点について伺います。

(事務局)

基本的に空き家となって1年以上経過すればメーターを撤去し、閉栓します。この1年以内は、次の入居者が使用する可能性があるため、メーターを撤去せずに開栓しております。寒波対策として、このような1年以内の空き家について閉栓します。

(構成員)

5ページの「水道事業の発展的広域化」の拡充分1億2,200万円について、宗像地区事務組合水道事業の包括受託の額が含まれているか伺います。恐らく含まれていると思いますが、宗像地区事務組合水道事業は受託済みであるため、ここに記載する予算は、新規の水道事業広域化に係る予算を記載する方が良いと思います。

(事務局)

宗像地区事務組合水道事業の包括受託は、平成28年度から受託を開始して今年で3年目になります。ご質問の拡充分1億2,200万円につきまして、宗像地区事務組合水道事業の修繕費の増及び浄水場

の一部改築のため、予算が増加しており、それが含まれております。

(構成員)

2点伺います。

1点目は、水道事業の浸水対策について、他都市で豪雨により浄水場が水没した事例がいくつかあります。そこで、北九州市の水道事業で浸水対策を実施する必要がある施設やその整備計画があるか伺います。

2点目は、地震対策等の一環として、特に火災発生時の消火活動のため、停電時にもポンプが運転できるように、一定規模の自家発電設備を整備している事例があります。そこで、北九州市の対策について伺います。

(事務局)

1点目の浄水場における浸水対策の計画につきまして、現在のところ、整備計画はありませんが、過去に大雨で近隣の川が溢れたことがあり、浄水場のポンプ室等の浸水対策を実施したことはあります。

2点目の停電対策につきまして、現在、主要なポンプ場に自家発電設備を設置する計画があります。自家発電設備の能力は、少なくともポンプ1台を動かすことが出来るように考えています。その他、浄水場等は、停電の少ない特別高圧等で受電し、さらに2系統から受電することでバックアップ対策としています。

(構成員)

2点伺います。

1点目は、7ページの下水道事業の平成30年度予算について、施設整備費が前年度比7億1,800万円減となっています。このような状況の中、9ページ以降の各事業について、進捗は順調なのか伺います。

2点目は、2ページ以降の主要事業の予算の拡充分について、内容のご説明をお願いします。

(事務局)

1点目の中期経営計画の15重点施策41実施事業の進捗につきまして、順調と評価しています。下水道事業の施設整備費の平成30年度予算が減となった理由につきまして、国の経済対策に伴い、本市も平成30年度事業を前倒して平成29年度2月に補正予算を計上したためです。この平成29年度補正予算と平成30年度当初予算を合算すると、当初予定していました平成30年度予算原案となり、ほぼ前年度並みの予算になります。

2点目の予算の拡充分につきまして、主な取り組みをご説明します。

2ページの「水道の震災対策推進事業」の拡充分3億9,500万円は、応急能力の向上対策、給水車の購入、導送水管の耐震化、バックアップ機能の強化に取り組みます。

3ページの「水道施設の改築更新事業」の拡充分3億3,200万円は、導送水管の耐震化、浄水施設の更新に取り組みます。

同じく3ページの「工業用水道施設の改築更新事業」の拡充分1億3,000万円は、配水管の布設替工事の工法変更に伴うものです。

4ページの「合流式下水道の改善推進」の拡充分1億円は、夾雑物(きょうざつぶつ)対策によるものです。

(構成員)

3点伺います。

1点目は、2ページの経営方針について、基本的な考え方が「福岡県内で一番安価な上下水道料金を維持する」よう努力するということが、お客さまにとって非常に魅力的なサービスだと思います。一方、恐らくお客さまが最も期待することは、安全・安心ではないかと思えます。そこで、安全・安心と料金のバランスについてお考えを伺います。

2点目は、5ページの下水道100周年記念事業について、参加者数の見通しや市全体に波及する経済効果の見込みを伺います。

3点目は、6ページ以降の水道、下水道、工業用水道事業の収支について、いずれも黒字を予定しており、非常に健全な計画になっていることを評価いたします。そこで、平成26年度の会計制度の改正で導入された長期前受金戻入の影響について伺います。

(事務局)

1点目の安全・安心と料金のバランスにつきまして、中期経営計画の経営目標は、老朽管の更新事業等を着実に実施し、平成32年度まで現行料金を維持するとしております。しかし、将来は、人口減少に伴う料金収入の減少と施設の老朽化への更なる対応等、より厳しい経営環境を迎えると認識しております。そのため、収支バランスの維持等の財政と、施設の更新等の事業の両立を図り、安定的な事業の経営が持続出来るように、今後、検討を行いたいと考えております。

(事務局)

2点目の下水道100周年記念事業の下水道展につきまして、本市で20年ぶりに開催されます。来場者数の目標は、4万人を見込んでおります。その他、全国から301の企業・団体がブース出展をすることになっており、その従事者の方々も含めて、下水道展の開催期間である7月24日から27日までの4日間で約4～5億円の経済効果を見込んでおります。本市のにぎわいづくりに十分繋がると思っております。

(構成員)

海外からも来場するのでしょうか。

(事務局)

下水道展開催期間中に、本市と関わりがあるベトナム、カンボジア等の方々をお招きして国際会議を開催いたします。その他、韓国、台湾の方々が視察に来たいという要望があり、海外からも多くの来場が見込まれるものと思っております。

(構成員)

北九州市はMICEで国際会議等を誘致する取り組みを行っておりますので、今回の国際会議も貢献出来ると思えます。

(事務局)

3点目の長期前受金戻入の影響につきまして、中期経営計画の財政計画は、会計制度の改正を受けて長期前受金戻入等を反映しており、その財政計画に対して特段問題はないと認識しております。

(構成員)

1点目の料金につきまして、次期計画において、安全・安心と料金のバランスを図っていただきたいと思っております。

2点目の下水道展の市全体に波及する経済効果は、下水道事業が結果を出していることのPRになりますので、是非、積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

3点目の会計制度改正につきまして、会計制度が改正されていなければ、財政は十分な体力ではなかったかもしれないということをお伝えしておきます。

(事務局)

只今、構成員から大変重いご指摘をいただきました。安全・安心と料金のバランスについて、お客さまは、安全・安心が確保されて、さらに料金が安価であれば一番満足だということは当然で、それを、どれだけ実現出来るかということだと思っております。平成32年度までは、現行の中期経営計画に基づき、耐震対策、浸水対策事業等を着実に実施し、収支バランスを図りながら現行料金を維持していきたいと思っております。しかし、平成33年度以降の財源の見通しは厳しいと認識しております。そのため、平成33年度以降の次期計画の策定のために内部でワーキンググループを設置する等、既に着手しており、今後の財源等をどのように見込むか等を、当検討会でもご意見をいただきながら計画を立てていきたいと思っております。事業と収支のバランスを図り、お客さまが安心して水を使用出来るように精一杯努力していきたいと思っております。

(構成員)

市民の立場から申し上げますと、安価が一番ではなく、安全・安心が一番だと思っております。まず、安全・安心が重要で、さらに安ければより満足だということです。安全・安心で確実に水を届けていただけることを切に願っております。

4ページの「合流式下水道の改善推進」について、合流改善達成率の平成32年度の目標が77%ですが、これは全部の下水道管を対象としているのか、それとも何か特定の要件を満たしている下水道管を対象としているのか伺います。

(事務局)

合流式下水道について、市内の下水道整備区域の約2割が合流式下水道です。この区域は旧5市の市街地にあたるところで、例えば八幡東区等の中心市街地は合流式下水道です。整備方法は二つあり、一つ目は分流化です。これは、新たに雨水管や側溝を整備して、元の合流管には汚水しか流さないという方法です。この整備方法は、主に八幡東区の槻田川流域や板櫃川流域で実施しております。二つ目は滞水池の整備です。雨が降ると最初にポンプ場等に一番汚い水が流れてきますので、合流管そのものは変更しないで、その最初に流れてくる汚い水を一旦滞水池に溜めて、雨が止んだ後に再度、処理する工程に戻すという方法です。この整備方法は、現在、八幡西区の東中島ポンプ場で整備中です。これらの二つの方法をあわせて合流式下水道の整備率を算出しております。合流式下水道の改善は、平成35年度末に整備率100%を目標としており、目標に向けて引き続き整備を進めていきたいと思っております。さらに、4ページの「合流式下水道の改善推進」の拡充分1億円の主な取組内容は、槻田川流域、黒崎地区等の夾雑物(きょうざつぶつ)対策です。大雨が降った場合、合流管から一時的に雨が川に流れ出ることになっております。その際に家庭から出た毛髪等のゴミ等が川に流れ出にくくなるように、吐き口にガイドウォールという水の流れを制御する装置を設置します。

(構成員)

平成30年度予算の人件費の前年度比について、増減理由を伺います。また、技術継承の観点から、若い人達を計画どおりにきちんと採用し、全体の人員構成が順調にしているのか伺います。

(事務局)

人員体制について、毎年、見直しを行っております。平成30年度予算の人件費の増減理由をご説明します。水道事業の人件費は減となっております。これは、組織を見直し、減員した結果です。一方、下水道事業の人件費は増となっております。これは、下水道100周年記念事業、保全事業のため増員した結果です。なお、退職者につきまして、一度退職してそのまま市の再任用職員として採用するという制度があり、そのため全ての退職者の人件費が減になっているわけではありません。

その他、技術継承の観点からの若い人達の新規採用のご質問について、採用は市役所全体で一括して実施しており、上下水道局のみで採用はしておりません。そのような中、上下水道局の対応として、局内でどれだけの退職者がいるか、組織の見直しはどうするのか、人材・人数等はどのくらい必要か等について市長事務部局と毎年、協議を行っております。例年、上下水道局には事務職・技術職併せて10名ほどの新規採用職員が配属されます。この新規採用職員を含めた若い職員の活用を図り、技術の継承に努めております。

(構成員)

遠賀川は一級河川で、北九州市にとって非常に大きな水源です。そこで、「遠賀川の水質改善対策」について、40の流域活動団体が関わっているということですが、そもそも何が問題で、どのように水質を改善しようとしているのか伺います。

(事務局)

遠賀川は本市の水源の6割を占めており、非常に重要な水源です。そもそも何が問題なのかというご質問について、以前、毎年、水質のワーストランキングが作られており、遠賀川は九州の一級河川20河川中、下から数えて1番から4番までを行き来するような水質汚濁の酷い川でした。現在もその状況は変わっておりません。そのような状況の中、水を浄化する立場から見ますと、水質汚濁が原因で夏場に藻類が繁殖し、その結果、水から、かび臭のような不快な臭いが発生するため、浄化が困難な状況になります。その水質汚濁の原因は、遠賀川の上流・中流域の下水道整備が進んでいないためです。福岡県内に筑後川地域や遠賀川地域等、様々な水系地域がありますが、遠賀川地域の下水道の整備率は70%弱で、県内で一番悪い状況です。そのため、下水道未整備地区の上流・中流域の市町村から家庭雑排水が直接、川に流出し、一番下流の本市に影響が出ることとなります。直近30年のデータによると、汚濁の指標は約4割改善しておりますが、もう少し改善が必要だと思っております。そのため、遠賀川流域で活動している団体に協力するため、平成24年から10万円を上限として助成金を支出しております。今後も引き続き、国等と協力して、水質改善を促進するように努めていきたいと考えております。

(構成員)

遠賀川は国土交通省の管轄だと思いますが、国土交通省の補助金は無いのでしょうか。

(事務局)

国土交通省の補助金制度はありません。

## ◇報告

- 1 北九州市下水道100周年記念事業について事務局から説明
- 2 門司区清見一丁目の道路陥没事故を受けた下水管の緊急点検結果について事務局から説明

## ◆報告及び全体に関する質疑応答・意見

(構成員)

門司区清見一丁目の道路陥没事故について、下水管のコンクリートが硫化水素により腐食したとのことですが、発生元はどこか、また、漏れたときに心配がないのか伺います。

(事務局)

硫化水素は下水道管の中で発生するものです。下水道管が満水のときは、硫化水素は発生しにくいのですが、掻き回されて空気に触れたときに発生しやすくなります。硫化水素は、時間をかけてコンクリートを腐食させますので、今回の原因も同様と思われます。そのため、瞬間的に高濃度の硫化水素が発生するということはないと思いますし、硫化水素の臭気は、ほとんどありませんでした。

(構成員)

下水道展について、開催期間が7月24日から27日の平日になっておりますが、土日が含まれていないことが残念だと思いました。下水道展のアトラクションは小さなお子さまを対象にしています。確かに夏休みに入っているのですが、親と一緒になければ来場出来ないお子さまについて、親が休みをとってまで参加するとは思えませんが、その点について伺います。

(事務局)

下水道展の主催者は日本下水道協会です。下水道展は、毎年、7月の第四週の火曜日から金曜日に開催すると決まっております。また、7月の土日は他のイベント等があり、どこの都市でも大きな会場が設定しづらいため、火曜日から金曜日に開催するのではないのでしょうか。夏休みに入っておりますので、是非お子さまをお連れしていただきたいと思っております。

(事務局)

下水道展は301の団体・企業の皆様が業務ということでもお出でいただきますし、来場する各自治体の皆様も同様です。また、開催期間中は、セミナーや会議等も併催するということがあります。当局からの働きかけといたしまして、是非、お子さまに来場していただけるように、夏休み期間中に開催していただきたいとお願いをしているところです。地元の皆様、九州・中国・近畿等の各自治体の皆様にも来場していただきたいと思っておりますので、是非、宜しくお願いいたします。

(構成員)

私は、児童クラブを連れて行こうと思っております。展示物のところに説明してくださる方は配置しているのでしょうか。

(事務局)

配置するようにしております。宜しくお願いいたします。

(構成員)

最後に総括をお願いいたします。

(事務局)

本日は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

水の安全性と安価について問題提起をしていただきました。これは上下水道事業を実施する者の最大のテーマだと思っております。いくら安価であっても安全に安定して給水が出来なければ本末転倒です。今後も最重点の事柄として局を挙げて考えていきたいと思っております。

平成28年に策定した中期経営計画の試算で、水道事業は毎年約1.1億円の減収を見込んでおりましたが、直近2、3年は見込みよりも料金収入が増えました。これは良い傾向ですが、天気によって左右される結果です。そのため、今後も同様とは限りませんので十分注意を払いながら事業を実施してまいりたいと思っております。

一昨日、昨日の台風は想定以上に少雨でしたが、上下水道局は雨が降らなくても降りすぎても困ることになります。降らないと渇水、降りすぎると浸水等の災害になります。丁度良く雨が降れば良いのですが、なかなか丁度良く降ってくれません。そのため、最近、東南アジアの気候に徐々に近づいているような気がしてなりません。時間雨量70ミリ、80ミリが年に何度も降るような気候になっております。そのため、下水道の整備・更新等を計画的に実施しなければならないと思っております。

先ほど水道事業の減収見込みのお話をしましたが、現在、市内の給水人口は約95万人、他都市を含む給水人口は約125万人です。そのため、広域化は増収対策の一つと考えておりますので、今後も推進していきたいと思っております。

下水道展につきまして、先立つ7月23日にさかなクンの講演会を予定しております。また、同時開催の国際会議は本市が今まで様々な国際協力をしてきた中で、関わりのあった様々な国や都市の方々にお越しいただき、意見交換を行って、今後につなげていきたいと考えております。

本日、構成員の方々からいただきました貴重なご意見等は、大変参考になるものでございました。今後、反映していきたいと考えております。今後も何卒宜しくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。